

事業完了報告書（天理市教育委員会）

調査研究期間等

調査研究期間	委託を受けた日 ～ 令和7年3月14日
調査研究事項	<p>《委託研究：夜間中学における教育活動充実に係る調査研究》 IV. その他夜間中学における教育活動充実に関すること 「大人の生徒にとっての効果的な校外学習の在り方」</p>
調査研究のねらい	<p>天理市立北中学校夜間学級には2024年2月1日現在45名の生徒が在籍している。戦争や差別、貧困・病弱・障害などで学齢期に教育を受ける機会を十分に保障されなかった人たちや、結婚などで主にアジア・南米から渡日した定住型の外国籍の人たちなどが学んでいる。</p> <p>また、2015年7月に入学希望既卒者が夜間中学への入学を希望した場合の考え方が示されるとともに、2016年12月に「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保に関する法律」（以下、「教育機会確保法」）が施行されたことで、入学希望既卒者への門戸が一層開かれた。本学級にも若干名ではあるが、家庭事情やいじめ等で学齢期に不登校になりそのまま中学校を形式的に卒業した人が、学び直しのために入学している。</p> <p>今後、本校でも他の夜間中学と同様、従来の層の生徒に代わって、こうした学び直しを希望する人たちの入学希望が増加していくと思われる。</p> <p>新渡日の外国籍生徒の場合、その背景として持っている文化、母語、価値観は、非常に多様である。そのため、日本事情の理解のための社会見学や体験学習の実施も求められる。さらに、日本語使用に関する学習カリキュラムについては、まず、自分の身の回りの社会にアクセスできるようになるための生活言語の習得から始まり、その後に各教科学習に進むための基礎的な学習言語の習得へと進めるといった、順序立てた教育課程が必要になる。</p> <p>また、学び直しを目的としている生徒の場合、置かれてきた家庭環境・経済環境、十分に学校へ通うことができなかった原因・理由が生徒によって異なっている。そのため、それぞれの生徒の過去の人生経験へ十分に配慮しながら、社会見学や体験学習の実施、将来の生き方を見据えた進路指導と教育相談が必要であり、学習目的の明確化、カリキュラムの工夫、個々の習熟度や学習方法など個々の生徒の特性に応じた対応が必要である。</p> <p>生徒の持っているこれらの多様な側面、それに基づく多様な学習ニーズに応える効果的な教育課程を編成していくためには、職員全体が夜間中学の教員としてのスキルアップを図り、学習シラバスとカリキュラムの改善に取り組んでいかなければならない。</p> <p>また、生徒の学校生活に目を向けると、お互いの意思疎通や共</p>

	<p>感・理解について、背景・文化・価値観・母語の違いによって生じる課題が見られる。この問題の解決のためには、生徒どうしが積極的に関わりを持ち、互いの違いとその背景を十分に認識しつつ、ともに学ぶ仲間として結びついていけるような仕組みを教育課程の中で工夫することも大切なことである。</p> <p>そのため、今年度の「夜間中学の設置促進・充実事業」における委託研究「夜間中学における教育活動充実に係る調査研究」に取り組む本校のねらいを、次の通りとする。</p> <p>■「大人の生徒にとっての効果的な校外学習の在り方」の研究</p> <p>本校には多様な背景を持つ生徒が集まっていることから、生徒の多様性に配慮した上で、社会見学や体験学習を通して、大人の生徒が効果的に日本社会事情を理解することを目指す。</p> <p>具体的には、生徒の経済的負担、多様な違いを持つ生徒どうしの理解・共感・結びつきを深めること、識字日本語学習をしている生徒の言語習得状況等を考慮した校外学習の在り方、現地で学んだことと生徒個々の生活とのつながりを発信する校外学習の在り方、等について研究し、その成果と課題を分析したい。</p>
<p>調査研究の成果</p>	<p>【6月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内研修を行った。 生徒の背景理解や「やさしい日本語」の使用を含めた職員研修 ・職員交流を行い、夜間中学教員としてのスキルアップを図った。 ・検討会議を行った。 学校外で具体的事物に触れて学習することで、 <ul style="list-style-type: none"> ・教室での学習内容や大人としての見聞・経験を深める、 ・職場や地域などの社会生活で求められる集団行動を身につける、 ・地域に戻って積極的に参画できるように経験を積む、 <p>等の校外学習の意義・目的を教職員で確認し、大人である生徒が、こうした意義・目的を達成するためには何が課題なのか協議した。</p> <p>生徒の学習状況・生活状況について担当教員から報告を受け、学習歴や学齢期に教育を受ける機会を十分に保障されなかった理由、生活状況や就職の有無、来日理由、識字・日本語能力、等の生徒個々の課題を明確にしつつ教職員で共有した。</p> <p>生徒の課題や背景についての理解を深め、大人の生徒が効果的に日本社会事情を理解することのできる社会見学や体験学習について、経済的負担・生徒相互の理解促進と交流・識字・日本語への配慮、学習と生活をつないだ発信、等を考慮した具体的な計画となるよう検討した。</p>

・校外学習についての下見及び関連研究を行った。

【7月】

・検討会議を行った。

下見の結果を含めて校外学習の計画をブラッシュアップした。意義・目的・ねらいに照らした課題解決のための方策を検討した。

目的地での物事と大人の社会生活との結びつきがわかるよう工夫した事前学習、日本社会事情・職業進路につながるよう工夫した事前学習、ワークシートの作成、識字・日本語能力による理解不足を防ぐための多言語による学習補助や通訳補助の実施、交流を含めたグループ活動の実施、等を検討した。

【9月】

・意義・目的・ねらいに照らした課題解決のための方策を実施した。その一つとして、識字・日本語への配慮として、ネイティブ話者である非常勤講師に協力してもらい、校外学習の意義・目的・訪問先の説明等を実施した。

・校外学習の事前学習を、2回実施した。

・校外学習で訪れて学ぶ事柄と、生徒個々の生活や文化とのつながりを、各クラスでの学習の中で生徒本人とともに話し合いを進めた。

【10月】

・校外学習を実施した。

・バス移動時間を利用して、ワークシートを使った学習や生徒交流を行った。

・参加生徒から感想文を集約した。

【11月】

・文化祭で、多様な生徒が在籍している夜間中学として多文化共生を意識して、校外学習で学んだ「うどん」という粉食文化から発展させて、生徒個々の生活につながるふるさとの粉食文化を発信した。生徒からの発信については、生徒自身の経験や家族・周囲から見聞きしてきたことの掘り起こし、生活と結びついた内容となり、教材作成など教育内容の創造につながることで、内容については詳しく聞き取るよう注意した。

【12月】

・検討会議を行った。

参加生徒の感想や文化祭等での発信などをとりまとめ、職員による反省・意見を出し合った。識字・日本語の力不足による理解不足や消極的行動姿勢が変容した生徒のようすも共有し、生

徒個々のアイデンティティやセルフエスティームに与えた影響についても協議した。意義・目的・ねらいに照らした課題解決のための方策についての分析を行い、成果と効果、課題、今後への引き継ぎ事項、等についての評価を行った。また、生徒の感想からは、生徒自身の経験や家族・周囲から見聞きしたことの掘り起こし、大人である生徒の生活と結びつく事柄、学齢期に校外学習の機会が持てなかったこと等も多く見られたので、生徒のセルフエスティームを伸長するよう配慮しながら、作文を綴るよう指導し取り組んでいくことを確認した。

【1月】

- ・校外学習や文化祭に参加した生徒の作文指導に取り組んだ。
- ・多様な生徒が在籍している夜間中学から地域へ多文化共生を発信することを意識して、文化祭と同様に、一泊校外学習での学びと生徒個々のふるさとの粉食文化を、市役所ロビーでの展示として発信した。(2025年1月20日～31日)

【3月】

- ・多様な生徒が在籍している夜間中学から地域へ多文化共生を発信することを意識して、文化祭と同様に、一泊校外学習での学びと生徒個々のふるさとの粉食文化を、天理駅前施設コフンでの展示として発信した。(2025年3月4日～10日)
- ・総括会議を行った。

調査研究によって得られた知見を本校の教育活動にどう活かせたのか、今後どう活かすのか協議し総括した。

校外学習の実施が、生徒の生活等を掘り起こすことにつながり、生徒どうしの連帯感を醸成し、校外学習へ参加した生徒については作文を綴る取り組みにつながったこと、学習としてもインプットからアウトプットとしての自己発信につながったこと等を成果として総括した。

今後も、校外学習を継続して実施し、その学習から、作文をはじめ文化祭等での発信・発表につなげていくことを模索していくことを確認した。そのために、大人の生徒にとっての効果的な校外学習の在り方について、具体的な訪問先の選定や学習支援の工夫等、引き続き検討していくことを確認した。

- ・他の夜間中学においても校外学習を計画する際に参考となる事例紹介の冊子を、成果物として作成した。